

令和3年度 第1回三条市総合教育会議 会議録

1 日 時	令和3年12月16日（木）午後2時～午後3時
2 場 所	三条市役所栄庁舎 中会議室
3 出席者	構成員 滝沢市長、長谷川教育長、小林教育委員、佐藤教育委員 (6人) 松井教育委員、樋熊教育委員
	事務局 栗林教育部長、野水教育総務課長、平岡子育て支援課長、 (7人) 熊倉小中一貫教育推進課長、星教育センター長、 坂井教育総務課課長補佐、佐藤教育総務課庶務係長
4 傍聴人	1人
5 議 題	(1) 三条市の教育全般に関する意見交換について
6 会議内容	
滝沢市長	<p>1 開会</p> <p>それでは定刻となりましたので、これより令和3年度第1回三条市総合教育会議を開催させていただきます。</p> <p>本日は、師走の大変御多用中にもかかわらず御出席を賜りまして、誠にありがとうございます。</p> <p>昨年度に続き、今年度も新型コロナウイルス感染症の影響により教育活動、そして子供たちの学校での活動がかなり制限されていたかと思えます。そのような状況下ではありますが、教育委員の皆様方におかれましては学校訪問等をされるなど、教育現場の実情把握に努められているとお聞きしているところです。本日は、皆様の日頃感じておられる三条市の教育全般に関する課題や御意見などをお伺いし、自由に意見交換をさせていただく場にしていきたいと思っておりますので、よろしくお願いたします。</p>
滝沢市長	<p>2 議題</p> <p>それでは、「三条市の教育全般」につきまして、教育委員の皆様方から課題や御意見等をお聞きしたいと思います。</p> <p>まず、小林委員お願いたします。</p>
小林委員	<p>私からは、2点発言させていただきます。</p> <p>まず1点目は、読解力の低下についてです。</p> <p>先日、全国学力・学習状況調査が実施されましたが、その結果について報告を受けた中で、「読解力」が低下していないかについて、気にしているところです。</p> <p>学力テストなどで、算数や数学の問題を間違ってしまうことも、読解力が足りないことから問題の内容を取り違えてしまうことが原因であるというようなことを本で読んだことがあります。</p> <p>読解力がしっかりと身に付いてさえいれば、教科書や参考書を読むだけ</p>

	<p>で、自ら学び理解を深めていくことができると思いますが、三条市として、読解力を伸ばすことの具体的な施策についてお聞きしたいと思います。</p> <p>滝沢市長</p> <p>ありがとうございました。</p> <p>小林委員の発言について、私の考えを申し上げます。</p> <p>読解力は全ての学習のベースとなる重要なものであると同時に、日常生活においても欠くことのできない能力です。</p> <p>今の子供たちの生活環境は、ここ数年で大きな変化を遂げました。</p> <p>昨年度から GIGA スクールの導入も進む中、子供たちの本を読む機会が大きく減り、長い文章を読み取る場が乏しくなっていると感じています。そのため、学校教育の中で、意図的に読書の時間を設定したり、文章の意味を正しく読み取り理解できるような学習場面を増やすなどして補っていく必要があると考えます。</p> <p>また、社会教育、家庭教育においても生涯を通じた読解力の育成につながる施策や取組が重要であると思います。</p> <p>一方で、三条市の子供たちの学力については、全国学力・学習状況調査において、国や県と同水準の成績であると認識しております。現在各学校で進めている朝読書や読書強調週間、国語科を含めた全教育活動での指導を通じて、読解力の更なる伸長を期待したいと思います。</p> <p>来年 7 月には新しい図書館が開館いたします。科学教育センターも併設されており、再来年度中までには、小学 3 年生から中学 3 年生までの全児童生徒を対象に科学教室を実施する予定であり、それに伴って図書館に行く機会も増えるかと思えます。そのような中で、読書に親しんでもらい、読解力の向上に役立てたいと思います。</p> <p>読解力の向上について、教育委員会ではどのように考えていますか。</p>
<p>星教育センター長</p>	<p>全国学力・学習状況調査の国語科では、「聞く」「話す」「読む」「書く」の項目があり、狭義では読解力は「読む」が当たると思いますが、「聞く」「話す」「書く」の項目も含め、全体的な教育活動の中で読解力の向上を目指さなければいけないと思っています。</p> <p>具体的な方策としましては、教員向けの研修である国語科に関する教科特別研修の実施回数を来年度から増やすこととし、国語科の指導力増強を図る中で、読解力の向上を目指したいと考えております。</p>
<p>滝沢市長</p>	<p>ありがとうございました。</p> <p>続いて小林委員の 2 点目についてお願いします。</p>
<p>小林委員</p>	<p>2 点目は、GIGA スクール構想により導入されたタブレット端末の活用に</p>

	<p>ついてです。</p> <p>GIGA スクール構想によるタブレット端末導入後、各学校で活用が図られていると思いますが、活用の方向性や、どのような指標により活用度合いを見える化するののかについて聞かせてください。</p> <p>ありがとうございました。</p> <p>小林委員の発言について、私の考えを申し上げます。</p> <p>学校の授業でのタブレット端末の活用が進むにつれ、どのくらい活用が図られ、子供たちがどのように学力をつけたか、という点はとても大切であろうと考えます。</p> <p>タブレット端末の導入は、比較的スムーズに進んだと思いますが、それをどう市民の皆様へ伝え、御指摘のあった活用度合いの見える化をどうするかについては、私自身も課題の一つと考えています。</p> <p>三条市においては、タブレット端末は現在市内の全小中学校・義務教育学校で活用されております。学校の教科の授業、学級活動、児童会や生徒会活動、クラブ活動、学校行事等、様々な場面で使われており、各学校の創意工夫の中で活用が図られています。</p> <p>また、「タブレット端末を用いた授業単元」など、端末を使用する参考例を示し、市として統一感をもって進められるようにしていると聞いております。</p> <p>教育委員会では、定期的に各校の活用状況を把握し、実践の好事例を全校に伝えることやその実践内容を市共有のクラウドやホームページに蓄積しており、効率化が図られています。今後、カリキュラムを改訂するなどして一層の活用を図る必要があると考えております。</p> <p>続いて佐藤委員、いかがでしょうか。</p>
<p>滝沢市長</p>	<p>私からは、現代の教育状況の不安について発言させていただきます。</p> <p>私自身小学生 2 人の親として感じるのですが、現状として先生方の置かれている立場は厳しいものと感じております。近年取組が始まった GIGA スクールや小学校の英語教育、またプログラミング教育等は、どれもこれからの社会を生き抜く中で必要な取組だと思えます。しかし、少し前に比べると、学ぶ内容が非常に多様化しており、先生方が習得すべき知識や技術が格段に増えてきているという印象を持っています。</p> <p>働き方改革ということもあり、労働時間がしっかり管理されるようになりましたが、先生方にとって果たして習得していく時間があるのだろうかという矛盾した思いを少し持っております。</p> <p>また、子供たちにとっても、授業の進むペースが早くなり、内容の理解が困難なまま先に進まされているような状況があるのではと懸念していま</p>

滝沢市長	<p>す。</p> <p>教える先生方も教わる子供たちも、双方が高いスキルを求められている気がしてなりません。</p> <p>市長は、このような現代の教育状況について、いかがお考えでしょう。</p> <p>ありがとうございました。</p> <p>佐藤委員の発言について、私の考えを申し上げます。</p> <p>GIGA スクール構想、外国語教育、プログラミング教育等は、産業界や社会からの要請もあり、また、子供たちが成長し、実社会に出たときに社会に貢献できる人間であってほしいということから来ていると思いますが、今の子供たちや先生方には習得すべき事項が多く、それに伴い、学習内容が複雑化・高度化しているということは、御指摘のとおりだと思います。</p> <p>そのような現場を支援するために、教育センターでは、先生方に研修会を対面とリモートの両方式で実施しています。また、授業動画や授業内容のデータがクラウド上のポータルサイトに蓄積してあり、それらを閲覧・参考にすることが、先生方のノウハウの共有や指導力の向上、負担の軽減につながると思います。</p> <p>市としては、この取組をしっかりとバックアップしたいと思いますし、また、それら教育活動のプログラムが現状と合っているか、それとも改善が必要なのかについて、常に見直しを続けていく必要があると考えています。</p> <p>また、先生方の働き方改革という意味では、部活の在り方についても検討する必要があります。私自身、部活動で学んだことも多かったのですが、そのときと今とでは状況も変わっておりますので、これからの時代に合った部活の運営の仕方ということを考えていかなければならないと思います。</p> <p>佐藤委員の方で、他に御意見等あればお願いしたいと思いますが、いかがでしょうか。</p>
佐藤委員	<p>市長からお話があったように、今後とも先生方へのバックアップをお願いしたいと思いますし、部活動に関しましても私が経験した時代と今の子供たちとは違いますので、現代に合うような形の運営方法を検討していただきたいと思います。</p>
滝沢市長	<p>ありがとうございました。</p> <p>続いて松井委員、いかがでしょうか。</p>
松井委員	<p>今のデジタルネイティブ世代の子供たちは、私たちと全く違う感性で、これからの社会を作っていくと考えています。</p>

滝沢市長	<p>そこで、私たち大人が子供たちにすべきことを考えたときに、幼児期や未就学の時期における教育の重要性を感じており、私からは2点発言させていただきます。</p> <p>まず1点目は、幼児期におけるデジタル利用に対してのモラル教育の必要性についてです。</p> <p>子供たちは、ネット TV、YouTubeなどを幼児期から当たり前に視聴できる環境にいます。交通安全指導と同じように、インターネットの危険性の指導が、家庭や保育園、幼稚園でなされるべきと思います。</p> <p>市長は、幼児期におけるデジタル利用に対してのモラル教育の必要性についてどのようにお考えでしょうか。</p> <p>ありがとうございました。</p> <p>松井委員の発言について、私の考えを申し上げます。</p> <p>パソコンやスマートフォンなどインターネットに接続できる機器が普及し、テレビでも簡単にYouTubeを見ることができるようになりました。</p> <p>私の子供は3歳になりましたが、夜寝かしつける際に、できるだけ絵本を読んであげるようにしています。それでも疲れている時は、ついスマートフォンで動画を見せてしまうことがあります。また、先日子供の誕生日だったのでおもちゃを買いに行きましたが、子供用のおもちゃのパソコンコーナーがあり、そこに大勢の人がいてとても驚きました。子供の頃からパソコンなどに慣れさせたいという親の心理もあるのかなと思いました。また、私の子供は歯磨きアプリを使って歯磨きの練習もしています。</p> <p>幼い頃から、このような環境で育つことについて、子供の好きな物や興味のあることなどを学ぶことや体験することができて非常に便利だと思う一方で、子供の視力や体力の低下、睡眠時間の減少による心身の成長・発達への影響や、親子の愛着を育む時間が少なくなることでの精神的な発達にも影響を及ぼす可能性が指摘されるなど、心配な面もあります。</p> <p>こうしたことから子供たちを守っていくためには、保護者がしっかりとデジタル機器を管理し、使用するときのルールを決めることが重要だと思います。</p> <p>現在は、乳幼児健診や年長児の保護者を対象にした眠育調査の中で、使用時間を確認し、早期からデジタル機器の使用が与える影響や睡眠時間の確保等の保健指導を行っているとのことで、効果を期待しております。</p> <p>今後も、幼児の保護者を対象にデジタル利用に対するモラルを学んでいただき、家庭内でも正しい利用方法を子供たちに教えてもらいたいと考えております。</p> <p>松井委員がよろしければ、2点目についてお願いします。</p>
------	--

松井委員	<p>2点目は、子供に対する保護者のサポートの啓発についてです。</p> <p>これからの教育において重要なのは子供の好奇心であり、失敗を恐れない心理的安全性を経験していくことが、好奇心や意欲のモチベーションになると考えます。</p> <p>そのためには、保護者は子供が失敗したり、不思議な行動をしても叱ったり、否定したりせず、次のステップに導くような言葉掛けができることが望ましいと思います。</p> <p>昔の人は、「三つ子の魂百までも」と言いましたが、幼児期の「次は上手くいくと思うよ。どうすればいいのか一緒に考えようね。」という、認めて寄り添う一言が、将来、社会に出る力につながる気がします。</p> <p>保育園、幼稚園で親を巻き込んでこのような活動が普及すれば、小学校との連携ももっと踏み込んだものになると思いますが、市長は幼児教育における保護者のサポートや生活活動について、どのようにお考えでしょうか。</p>
滝沢市長	<p>ありがとうございました。</p> <p>松井委員の発言について、私の考えを申し上げます。</p> <p>幼児期における教育には、保護者のサポートが非常に重要であると考えています。</p> <p>教育委員会では、幼児の保護者向けに、幼児期における子育ての不安を解消するための方法や楽しく子育てをするためのヒント、子供との関り方などを学ぶ「幼児期家庭教育講座」を、また小学校入学までに身に付けてほしい基本的な生活習慣や、子供のやる気をサポートする保護者の関わり方などを学ぶ「小学校就学時家庭教育講座」を実施しています。</p> <p>こうした講座の中で、保護者には褒めることが子育てで大切ということを学んでもらい、子供たちは褒められることで認められたという自信が付き、新たな行動への意欲を高め、さらに「サポート」を超えて、親自身の人間的な成長も図られるのではないかと考えております。</p> <p>これらの講座を通じて、例えば小1プロブレムのような壁を親子で共に乗り越えるための必要な要素が形成されるものと考えております。教育委員会では、それをバックアップするために幼保小連携を進めておりますが、より一層の効果を生み出せるものと期待しております。</p> <p>松井委員の方で、他に御意見等あればお願いしたいと思いますが、いかがでしょうか。</p>
松井委員	<p>10月に学校訪問をした際に感じたことですが、特別支援学級の増加にとても驚きました。</p> <p>学校になじめない子供が、居場所をフリースクールに求めるという話を</p>

滝沢市長	<p>聞きます。</p> <p>新型コロナウイルスや GIGA スクール、不登校、先生方の働き方改革など多くの課題はありますが、今ここで立ち止まり、広い視野で学校教育を見直す時期に来ているように思いました。</p> <p>また、山形県の天童中部小学校では、マイプラン学習という、子供が中心の学習カリキュラムを実践しているという例も聞いております。</p> <p>三条市でも、子供や先生方が、わくわくして登校できるような学校づくりができればいいなと思います。</p> <p>先日、全国市長会の代表として、Zoom により、こども庁に関するヒアリングを行うこととなりました。</p> <p>まず、内閣府の担当者にお話しさせていただいたのは、単なる組織を作るだけではなく、権限と権限を行使するための予算を付ける必要があるということです。</p> <p>もちろん、三条市での取組も重要ですが、国としてもしっかりと予算立てをした上で、教育や子育てに役立つ組織とするように意見を述べさせていただいたところです。</p> <p>また、発達障害については多くの課題を抱えていると感じておりまして、発達障害の方への量的サポートが、どうしても都市部に比べて弱いという御指摘もあります。これらはすぐに解決できるものではありませんが、問題意識としてしっかりと見据えていきたいと思っておりますし、できることから始めたいと思います。</p> <p>続いて樋熊委員、いかがでしょうか。</p>
樋熊委員	<p>私からは、3点発言させていただきます。</p> <p>まず1点目は、インターネットトラブルへの対応についてです。</p> <p>12月4日の新潟日報に「タブレットによるいじめ14件」という見出しが出ておりました。記事の内容は、県内の小中学校に配布したタブレット端末を使ったいじめが計14件あったということが、県教育委員会の調査で分かったということです。</p> <p>県教育委員会生徒指導課のコメントでは、既にこれだけあることに驚いているが、これは氷山の一角であり全てとは思えないとのことでした。</p> <p>また、新潟大学教職大学院の雲尾准教授のコメントによれば、子供たちがいじめと認識していない可能性があるとのこと、端末の利用を規制するのではなく、これはいじめなんだということを、学校でしっかりと教えることが重要だとのことでした。</p> <p>現在学校では、SNSによる誹謗中傷、インターネットの使い過ぎによる生活の乱れなどが児童生徒の指導の大きな課題になっています。学校や学園</p>

滝沢市長	<p>では、情報モラル・セキュリティ講演会の開催やルールづくりに取り組んでいますが、なかなか成果が上がっていません。一人に1台配られたタブレット端末の活用に伴い、セキュリティの管理も急務と考えます。</p> <p>市長は、これらのことについて、どのようにお考えでしょうか。</p> <p>ありがとうございました。</p> <p>樋熊委員の発言について、私の考えを申し上げます。</p> <p>インターネットがこれだけ私たちの生活に密接なものになると、それをうまく利用し、うまく付き合うことが求められるものです。ICT 機器を取り扱う上で、危険な面があることを自覚し、そのためのリテラシー教育やモラル教育の推進が求められると思います。</p> <p>一般的には、「インターネット上のコミュニケーションは、顔を向けて直接話すことと違い、端末機器の液晶画面上の文字によるやりとりだけになり、誤解や意思の食い違いが生まれやすく、問題につながることもある」と指摘されています。</p> <p>このことから、ICT 利用上の注意点を理解させる機会を今後とも継続して設けることが大切であると思います。</p> <p>市では予算を確保し、「ネットいじめ、ネットトラブル防止教室」を実施する際の講師派遣の助成をしています。また、タブレット端末を使用する際のルールの指導も徹底しているところです。社会における ICT 化は進展しており、それらを使わないということはもう考えられない状況ですので、情報社会を生き抜くために、我々大人がいじめのない環境づくりを進めていかなければならないと思います。ただ、LINE の指導やタブレットですと写真撮影もできるため指導が多岐にわたることから、先生方も大変だと思います。</p>
樋熊委員	<p>学校で教えなければならないことが多くなり、先生方も大変だと思います。また、クローズドブックはセキュリティが高いとのこと、その部分は安心できますが、子供たちはそのセキュリティを解除しようとするので、指導が難しいところです。</p>
滝沢市長	<p>YouTube などでもラル動画を検索すれば、様々な動画があると思いますが、率先して子供たちに見てもらうことは難しいかもしれません。</p> <p>やはり、直接先生が教えないと、子供たちには響かないというところがあると思います。</p> <p>それでは、樋熊委員の2点目についてお願いします。</p>
樋熊委員	<p>続いて2点目は、特別支援教育、不登校、ICT 対応等のための人的支援の</p>

	<p>更なる充実についてです。</p> <p>三条市に勤務しているある教職員の本音ですが、教職員の数が足りないということです。なぜかという、特別支援教室だけでなく、通常の学級にも特別な支援が必要な児童生徒がおり、その対応が多様なことから学級担任一人だけでは対応しきれないという声をよく聞きます。</p> <p>三条市は、パートタイム職員である特別支援サポーターを65人採用し、特別支援学級に在籍している児童生徒を中心に対応に当たってもらっており、学校現場は大変助かっています。しかし、通常の学級での対応まで手が届いていないというのが現状です。</p> <p>学校現場では、年々特別な支援が必要な児童生徒が増えています。年度当初では落ち着いていた児童生徒が、年度途中から学校、学級に適応できず、パニックを起こしたり教室に入れなくなるケースもあります。</p> <p>特別支援サポーターやスクールアシスタント等の更なる増員について、どのようにお考えでしょうか。</p>
滝沢市長	<p>ありがとうございました。</p> <p>樋熊委員の発言について、私の考えを申し上げます。</p> <p>特別な支援を要する子供たちは、今後も増加していくことが予想され、学校への人的支援を考えていかなければならないと思います。</p> <p>特別支援サポーターについては、教育委員会において各校の要望を基に配置してきているところですが、増員につきましても、状況を見極めながら教育委員会と協議していきたいと考えております。</p> <p>スクールアシスタントについては、今年度一人当たりの従事可能日数を15日増やし、135日としました。</p> <p>なお、増員ということになると予算が関係してきます。三条市の人口減少に伴って税収を伸ばすことが難しいと予想されていますが、予算を調整する中で、人件費についてもしっかりと検討しなければならないと考えております。</p> <p>続いて樋熊委員の3点目についてお願いします。</p>
樋熊委員	<p>続いて3点目は、子供と向き合う時間を確保するための教員の働き方改革についてです。</p> <p>令和2年の三条市議会第6回臨時会における滝沢市長の所信表明では、「先生が子どもに愛情を持って接し、子どもが先生を信頼するという関係がなければ質の高い教育は成り立ちません。しかし、学校に対するニーズの多様化や社会の変化に伴う課題の複雑化によって先生の負担は大きくなっており、心ならずもそうした関係を十分に構築できない、あるいは構築するために先生が過度に頑張らざるを得ない状況が存在しています。」と</p>

滝沢市長	<p>述べられています。</p> <p>教員の一番の悩みは、まさに市長所信表明のとおりです。</p> <p>今、学校現場は、ビルド&ビルド&ビルドです。GIGA スクール構想、小学校の英語指導、防災教育、新型コロナウイルス、熊対応等、重要な教育内容、命に関わる対応がどんどん入ってきています。</p> <p>しかし、今まで取り組んできた教育活動をなかなか減らすことができません。勇気をもってスクラップしていかなければ、一番大切な「子供と向き合う時間」がどんどん削られてしまいます。</p> <p>各学校のスクラップに向けた取組のほか、市の積極的な取組や働き掛けも必要と思いますが、市長はどのようにお考えでしょうか。</p> <p>ありがとうございました。</p> <p>樋熊委員の発言について、私の考えを申し上げます。</p> <p>働き方改革は着実に進めるべき重要な課題と認識しております。</p> <p>「学校現場は今、ビルド&ビルド&ビルド」という指摘はそのとおりであると思いますし、先程お話しさせていただいた働き方改革にも関係してきますが、業務のスクラップを着実にしていかないと先生方が多忙となっていくばかりです。その多忙さから教師という職業の人气が下がり、それに伴って教師の質の低下が懸念されるということもありますので、しっかりと取り組んでまいります。その取組の一つとして、今後の部活動の在り方について、三条市としてしっかりと向き合っていきたいと思っております。</p> <p>また、最近はスクールロイヤーという言葉をよく聞くようになりました。学校で起こった問題について弁護士を派遣する制度ですが、私自身は、その弁護士が学校、保護者、児童生徒のうち、誰の味方なのか曖昧な制度だと思ふところもあります。しかしながら、学校で起こる様々なトラブルに対し、学校側がもっと早い段階で弁護士に相談すれば、そのトラブルが大きくなることを防ぐことができますし、トラブル対応への教師の拘束時間や心理的負担を減らすことにもつながると思っております。今後、市内の先生方が弁護士に気軽に相談できるような体制づくりを検討してまいりたいと思っております。</p> <p>教員の勤務実態については、改善すべき課題があると認識しております。業務の支援については、令和2年度に運用を開始した「三条市立学校教育職員の勤務時間の上限に関する方針」により、保護者の皆様に勤務実態の理解を求めていくことも重要であると捉えています。</p>
樋熊委員	<p>事業をスクラップした中で予算が生まれれば、私が2点目に挙げた特別支援サポーターやスクールアシスタント等の増員のための費用に充てるなどの取組を期待したいと思います。</p>

滝沢市長	<p>そのほか、いかがでしょうか。 最後に教育長からいかがでしょうか。</p>
長谷川教育長	<p>公務御多用の中、総合教育会議を開催していただきまして、感謝申し上げます。</p> <p>本日は、特にテーマを絞ることなく、教育委員の皆さんから三条市の教育に懸ける思いを述べさせていただきました。大変多くの意見交換をさせていただいたと思いますし、その内容も濃く、また重いものもありました。</p> <p>教育に関する問題は、教育委員会だけ、あるいは三条市だけで解決できるものではありません。</p> <p>子供たちがしっかりと成長していくために、我々は何をすべきか問い直しながら、三条市の教育が良い方向に進めるよう教育委員の皆さんと共に、今後も市長と協議を重ねてまいりたいと思います。</p>
滝沢市長	<p>3 閉会</p> <p>ありがとうございました。</p> <p>それでは、これをもちまして本日の総合教育会議は閉会とさせていただきます。</p> <p>本日は、大変お忙しい中お集まりいただき、貴重な御意見を頂戴いたしまして、ありがとうございました。</p>